

目的

農家の皆さんのサポートを得て、協同ファーム会員とその家族が、安全で美味しい野菜をつくり食べることを通して「住みよい地域づくり」と「健康・元気」に貢献する

- 私たち「えざね協同ファーム」は、農家の皆さんのサポート得て、安全で美味しい野菜をつくり食べることを通して、
 - ・「農・食・健康」を大切にする社会づくりをめざします。
 - ・協同して住みよい地域づくり・まちづくりに取り組みます。
- 私たち「えざね協同ファーム」は、「農・食（組織運営）」は、会員相互の協力による畑作業ボランティアや農・収穫体験などの活動を軸に行います。

〒441-1101 豊橋市賀茂町字恵実39-2
連絡先: 090-3952-6693 中嶋 芳夫

I. 行動指針

農家さんのサポートを得て、
健康な土づくり・有機栽培を行う

健康

農

食

II. 行動指針

楽しく野菜を育てて、収穫を喜び、失敗も次の糧にする
ファームで「非日常」を楽しみ、畑作業で身体を動かし、
気力・体力を養う

III. 行動指針

安全で美味しい野菜を自給自足する
安全で美味しい野菜をしっかりと食べる

会員

1. 会員は、1単位3000円相当の「野菜引換権」の前払いし、所定の入会手続きを行う。
便宜上、「1ベジ＝500円相当」「6ベジ＝1ロッジ」の単位呼称を用いるものとする（500円相当）
2. 会員は、会員相互の協力によるボランティア作業や農・収穫体験などの活動に主体的に参加します。
3. 会員相互の協力により収穫できた野菜は、会員相互に協力して「利用したい会員」に届ける。

運営

1. えざね協同ファームの運営・活動に参加する会員の協同運営・協同活動を行う。
2. 「えざね生産者グループ」の一員となり、協同・連帯を強める。
3. 協同・連帯の輪を広げるため、日誌（日々の活動記録）やホームページ・フェイスブック・LINEなどの広報活動を重視し、組織的に取り組む。
4. ホームページを立上げ、地域や生協組合員他へ広報活動を広げる。

財政

1. 会員からの1ロッジの前払金と借入金（パソコン購入代金）で賄う。
2. 5月からの半年間の財政評価は、野菜は定期参加のボランティアの協力を得て生産できるようになったが、利用したい会員に届ける手段を見出していないので、野菜はできても売上げが少なく、少額ではあるが赤字となっている。

解決策は、

- ①利用したい個々の会員にどうしたら野菜（えざね生産者グループの野菜を含め）を、会員相互の協力を得てお届けできるか知恵を出し合い方法を見出すことです。
- ②利用可能な会員を増やす。農・収穫体験への参加者を募り収穫して購入いただく。

I. 行動指針 土づくり

安藤農園様のサポートを得て、「健康な土づくり」・有機栽培を行う

□安藤農園様の有機栽培基準に準じ、農家の皆さんの栽培指導・サポートをいただき「健康な土づくり」・有機栽培を行う

1. うねづくり

①畝幅に沿って溝掘り(30～50cm)→栽培資材(古竹・わら・草・残渣等・EMボカシ肥料・粃殻くん炭・食塩・カキ殻粉末・苦土石灰・堆肥・EM活性液)を入れ →土盛・栽培資材すき込み→黒マルチ掛け

②畝間に、栽培資材施肥→新聞紙等の紙と段ボールを敷き→草・残渣等を載せる

2. 資材づくり・手当 ①EMボカシⅡ型 ②粃殻くん炭 ③EM活性液 ④草堆肥 ⑤支柱用竹取り

3. 苗・種子手当で: ①苗づくり:基本的に安藤農園様から分けていただく←苗作りのお手伝い等をします
無い品目は、自力で育苗または業者から購入する

②種子確保:安藤農園から分けていただく、自力で購入する(種子消毒の有無を確認する)

4. EM培養液他の希釈液の葉面散布、刈払機で畑周辺を含めてこまめな草刈作業、その他付帯する作業

5. 安藤様の農機具等を使用させていただく

○ボランティア畑作業は、楽しく汗をかき、励ましあって、都合のいい日で、個々の実情に合わせて行う

・月間カレンダーにボランティア予定を入れ、1週間前に調整する

・ボランティアの主な作業は次のとおり

収穫、種まき・苗植え、間引き、整枝、水やり、草取り虫捕り、畝間に防草紙敷きなど

Ⅱ. 行動指針 栽培

楽しく野菜を育てて、収穫を喜び、失敗も次の糧にする
畑作業で身体を動かし、気力・体力を養う

○協同ファームの会員に、みんなで、楽しく、「農体験」と「学び」の機会を案内する→参加費は都度案内する

- ・収穫体験：月間カレンダーで体験のできる品目の案内し、小規模で参加いただく
- ・植付体験（1株単位で収穫できる芋類等の品目）は、生育過程を見守り、楽しく収穫し、味わう
- ・米ぬかボカシⅡ型仕込み体験：仕込んだボカシ有料でを持ち帰る

○安藤農園様の有機栽培方法を教えていただき、真似る

○年間栽培計画づくり（PLAM）→栽培（DO）→振り返り（CHECK）

1. 年間栽培計画づくり（PLAN）： ①畝ごとの栽培履歴を確認し、連作障害に配慮して、夏秋と冬春作を基本に作成する

2. 栽培（DO）

①種まき・苗植え： 前述の畝に、種まき・苗植えを行う

②日常作業： 水遣り・EM活性液の希釈液等の葉面散布・捕虫→整枝等→収穫→片付け

③栽培日誌等の作成：

天気・気温・作業参加者・作業内容・育成観察・虫害・病気発生と対策・収穫品目と収量・野菜分配記録・振り返り等

3. 振り返り：日次・月次・半期・年次（CHECK）

①日次：翌日の作業内容に反映させる・虫害や病気は発見したら直ぐに対処する

②月次：天候に大きく左右されるが、作業の進捗状況を確認して、翌月の作業内容に濃淡（個人の日程調整など）をつける

③半期：作付け品目や栽培量等の計画の見直し

④年次：年間のまとめと次年度の計画づくり

Ⅲ. 行動指針食

1. 安全で美味しい野菜を「自給自足」し、毎食しっかり・美味しく食べる

○美味しく食べて、「健康・元気」、ダイエット！！

- ・毎食しっかり野菜を美味しく、楽しんで食べる
- ・美味しくする調理法・レシピなどの情報交流

○安全で美味しい野菜を「自給自足」する

1. 野菜の優先順位は、第1. 協同ファームで収穫した野菜、第2. 安藤農園様の野菜、第3. 恵実グループの野菜
保存野菜(芋類・玉ネギ等)とその日収穫の野菜を組み合わせる

野菜は新聞紙で包み宅配使用のポリ袋に入れる。宅配は一空き段ボール箱を使用する

2. 野菜のお渡しは、予めお渡し日を把握して、お渡し可能な範囲(天候・数量等)で対応する
3. 収穫体験での持ち帰り・・・自分で必要な野菜を収穫する
4. 野菜は「1ベジを1単位」としてお渡しし、預かり・使用済みと残高を管理する

1ロット＝3000円＝6ベジを基本的に前払い

栽培資材のお渡しも野菜と同様、ベジ単位で管理する(例:EM培養液1ベジ/4L、くん炭1ベジ/袋)

○毎日の食事で、野菜をしっかり食べ、食を楽しむ

- ・余剰や規格外の野菜も、漬物などにする→糠床づくり、採りたて高鮮度の美味しさを味わう(塩茹で枝豆・落花生など)
- ・野菜以外に季節のジャムづくり(金柑・梅杏は安藤農園、いちじく・柿は坂田農園)
- ・季節ごとの果実酒(梅・さくらんぼ・ビワは安藤農園など)をつくり楽しむ
- ・野菜の優れた健康効果を学び、バランスよく食べて、元気・ダイエット！